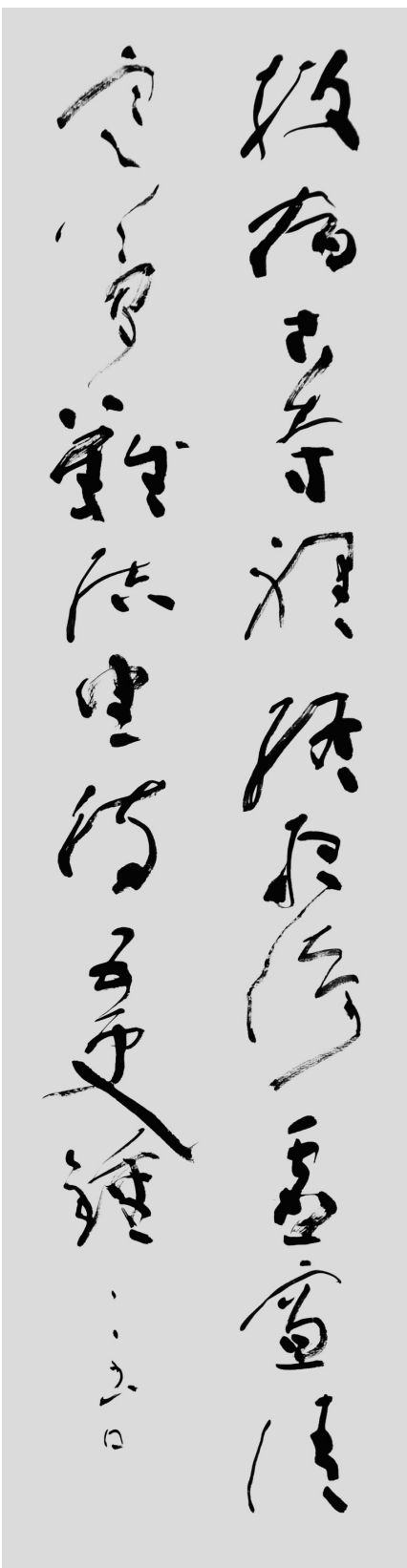


11月25日正午必着

明石春浦先生書



投宿古寺裡 終夜倚虛窗
とうしゆくすふるでこのうち せいかんゆめむすびがたく さしてまつこうのかね
 清寒夢難結 坐待五更鐘

(良寛)

古いお寺に宿かりて、夜すがらひとり、窓による。
 寒さで夢も結ばれず、坐禅して待つ、明けの鐘。

明石幸子書



黄花香淡秋光老
こうかこうはあわくしゅうこうおい

落葉聲多夜氣清 (張棟)
らくようこえおおくやききよし

菊の香もあわく、秋も深まり、落葉の音しげく夜気も涼しい。

雨宮春聲先生書



茶の花に隠んぼする雀哉（小林一茶）

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

秋天萬里淨（王維）

秋天萬里淨し

天高く秋月は明らかである。

何處秋風至。蕭蕭送雁羣。
朝來入庭樹。孤客最先聞。

何れの處よりか秋風至る、蕭蕭として雁羣を送る。
朝來庭樹に入る、孤客最も先に聞く。

題三元録事所居（劉長卿）

元録事が所居に題す 劉長卿

我は、その聞くに堪えざる秋風の悲しい
声を人に先だちて聞くのである。

幽居蘿薜情 高臥紀綱行
鳥散秋鷹下 人閑春草生
冒嵐歸野寺 收印出山城
今日新安郡 因君水更清

幽居して 蘿薜の情あり 高臥して 紀綱行わる
鳥散じて 秋鷹下り 人閑にして 春草生ず
嵐を冒して 野寺に帰り 印を収めて 山城を出づ
今日 新安郡 君に因つて 水更に清し

寢しづまる里のともし火皆消えて 天の川白し 竹藪の上に （正岡子規）

半紙部規定課題A

11月25日正午必着

未煙
眠中
人

※作品には必ず落款を入れてください。

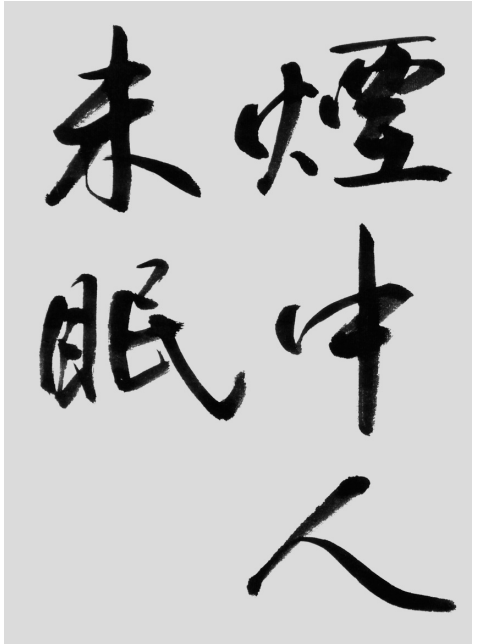
明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

11月25日正午必着

行書

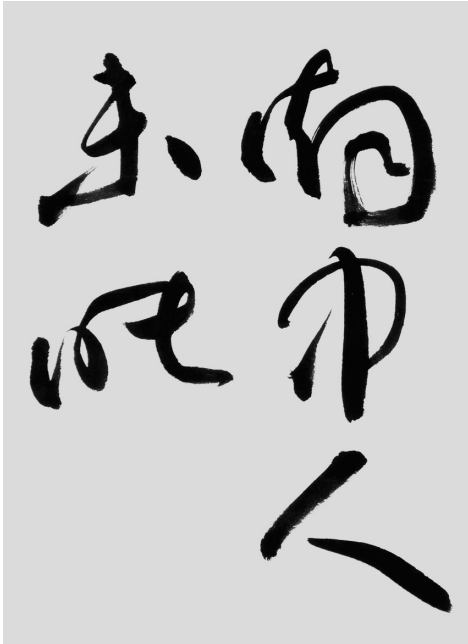


隸書

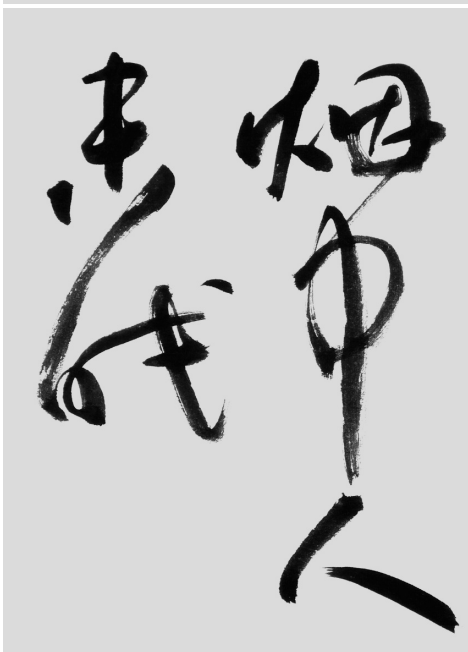


明石春浦先生書

草書



行草書



夜になって、楚の家々の盛に煙たちのぼる地域にはいった。煙の中に、人々はまだ眠らずにいる。淮水の岸辺の眺望を極めつくし、舟中に坐したまま酒樓の前についた。灯火の影は半ば水を照らし、あたりの船の中からしきりに箏のしらべがきこえる。流れに乗って東をさして行こうとするが、この地を離れて行けば、たちまちに年月が過ぎることであろう。

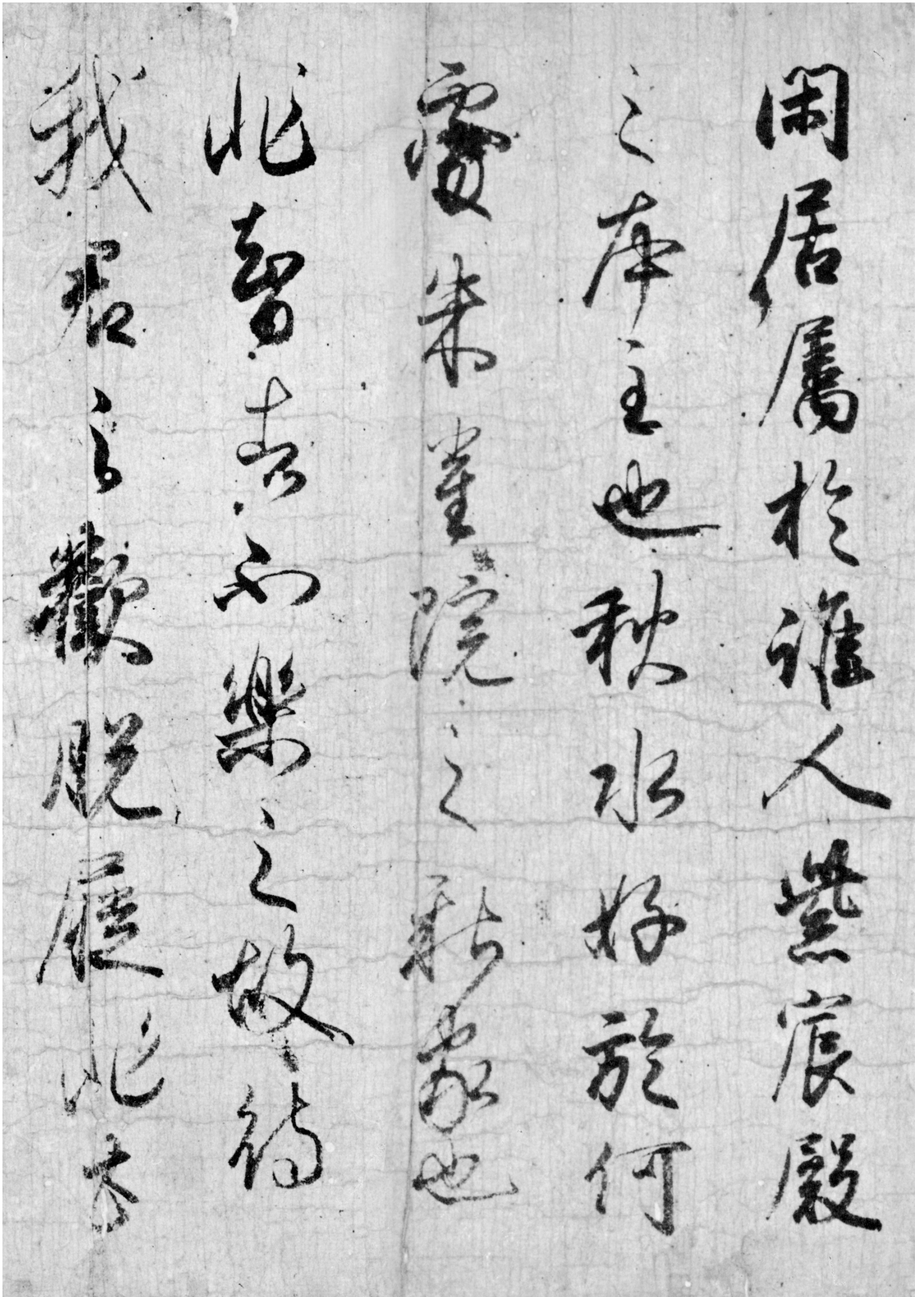
夜泊淮陰 項斯

夜入楚家煙
煙中人未眠
望來淮岸盡
坐到酒樓前
燈影半臨水
箏聲多在船
乘流向東去
別此易經年

夜 淮陰に泊す 項斯

夜 楚家の煙に入る
煙中 人 未だ眠らず
望み來つて 淮岸尽き
坐して到る 酒樓の前
燈影 半ば水に臨み
箏聲 多く船に在り
流れに乗じて東に向かつて
去る
此を別れて 年を経易からん

朝日新聞社刊
「三体詩」下より



閑居屬於誰人紫宸殿

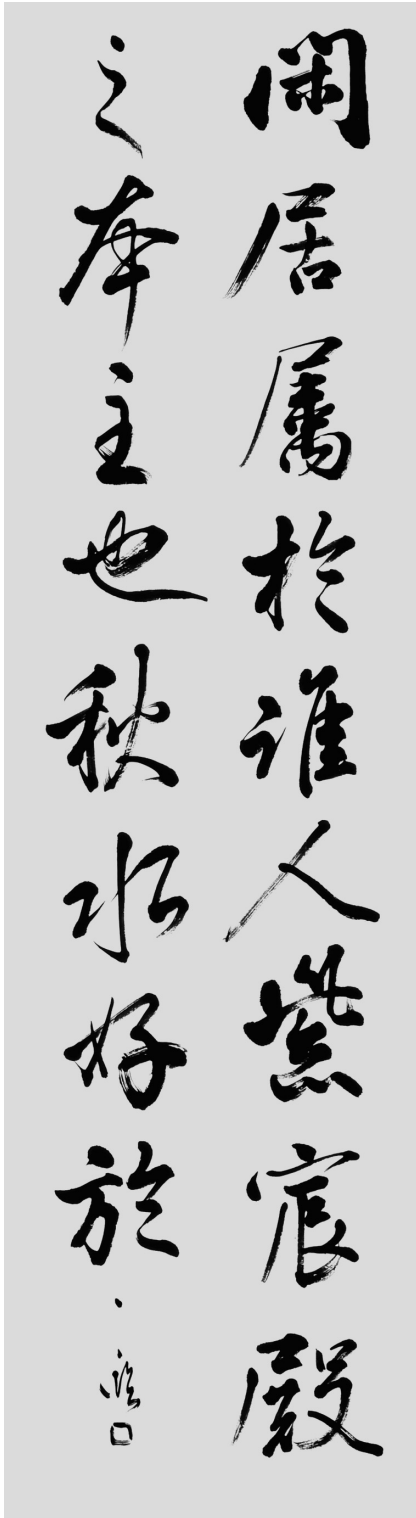
之存主也秋水好於何

處朱雀院之新家也

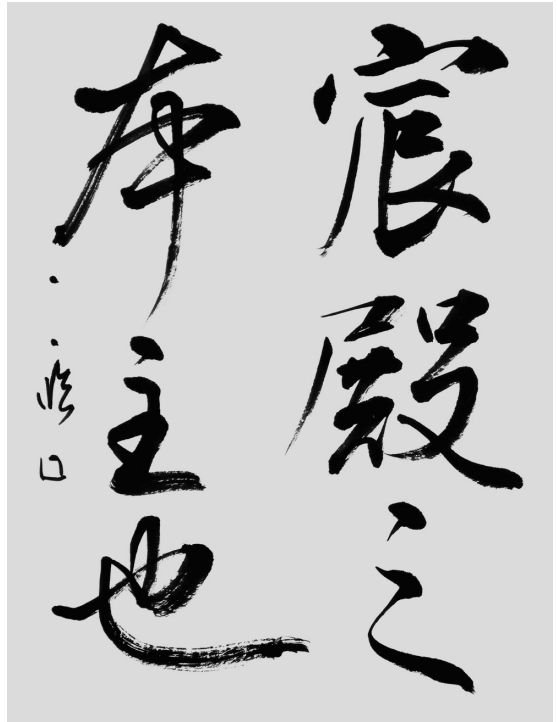
非智者不樂之故待

我君之歡脫履此也

閑居屬於誰人。紫宸殿之本主也。秋水好於何處。朱雀院之新家也。非智者不樂之。故待我君之歡脫履。非玄
 閑居誰人にか属す。紫宸殿の本主なり。秋水何れの処か好き。朱雀院の新家なり。智者にあらずんば之を樂します。故に
 我が君の脱履を歡ぶを待つ。玄(談)にあらずんば



閑居誰人にか属す。紫宸殿の本主なり。秋水（何れの処か）好き。



宸殿の本主なり。

平安 藤原行成・本能寺切

平安時代は、貴族の文化であり、従来の唐風文化から国風文化へと移行していった時代でもあった。書の世界でも「三筆」（空海、嵯峨天皇、橘逸勢）の時代から「三蹟」（小野道風、藤原佐理、藤原行成）の時代へと、唐風の書が和洋書道（道風、佐理、行成という三代を経て完成した。）へと変化していった。

行成の見逃すことの出来ないエピソードを「古事談」という鎌倉初期の本が伝えている。

それは清涼殿の歌会の際に、藤原実方が行成の胸ぐらをつかみ、冠を庭へたたき落とした。当時の公卿にとっては、大変な恥辱であり、逆上し大騒ぎになるところだが、行成は少しも動揺せず、冠を拾い、静かにかぶり直した。このいきさつをずっと見ていた一条天皇が、行成の温厚な、そして肝のすわった器量、態度にたいそう感銘をうけたという話である。

当然ながら行成の書には、沈着冷静な人柄が反映されている。和様独特の均齊のとれた美しい文字、すみずみまで行き届いた微妙な筆づかい。そして懐を広く構え、品格と規範の中であらゆる技を取り入れ、一線一画を鋭い感性と感覚でまとめてある。

臨書するにあたっては、気品を大切に、緩急抑揚をとり入れて、字と字の気脈が断えないよう、リズムに乗って書きたい。



せいぶつがくしゃ
生物学者

中学一年

雨宮春聲先生書



こうがぶんめい
黄河文明

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



むしなく里

小学五年

榎戸春龍先生書



少年の志

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着



ほ し ^{そら}空

小学三年

藤田幸春先生書



ばら ^{はな}の花

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

て ん 小学一年・幼年



森戸春濤書

だ ん ご 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

朝のさん歩でしおりに
 する落ち葉をひろった

小学五年

山を色どるもみじの赤
 と澄みきった空の青

小学六年

谷のもみじはあざやかに
 山を染めゆく秋景色

中学

今秋は香りの良いかりん
 酒をお届けしたいです

一般(級位)

吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風を嵐といふらむ
 (文屋康秀)

秋の草木のしをるればむべ山風を嵐といふらむ

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

か	や
み	ね
ひ	ま
こ	で
う	と
き	ん
	だ

幼年

の	こ
さ	う
ん	え
ぽ	ん
み	は
ち	
	犬

小学一年

い	字
ね	は
い	正
に	し
か	く
こ	
う	て

小学二年

秋	ど
の	ん
落	ぐ
と	り
し	の
も	実
の	は

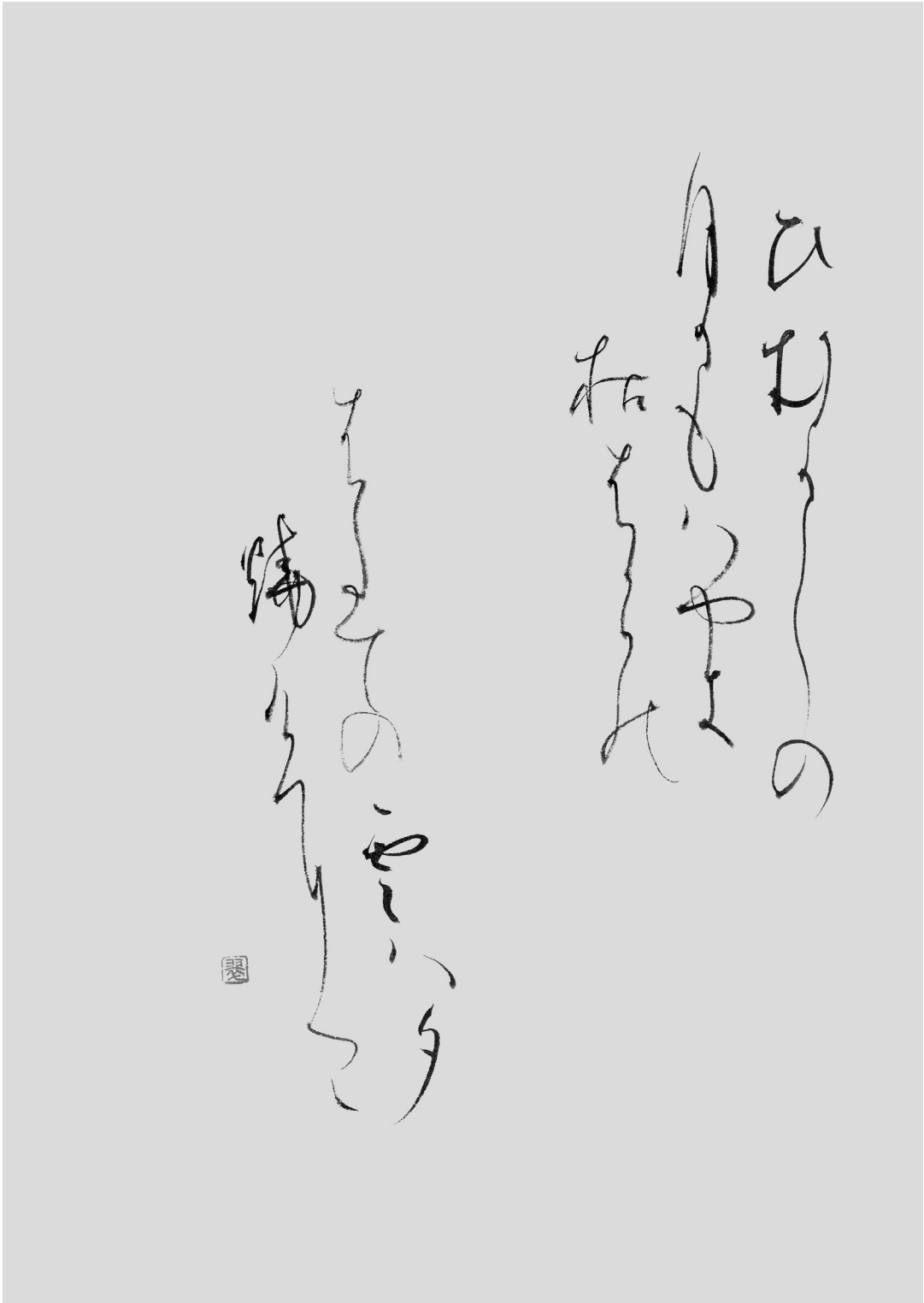
小学三年

ん	花
だ	屋
ポ	の
イ	店
ン	先
セ	に
千	な
ア	ら

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

ひむかの
 可
 月か
 可
 毛も
 八は
 也や
 支き
 枯は
 者ら
 能の
 者た
 多て
 の雲
 八は
 夕焼
 介け
 耳につ
 、
 (島木赤彦)